

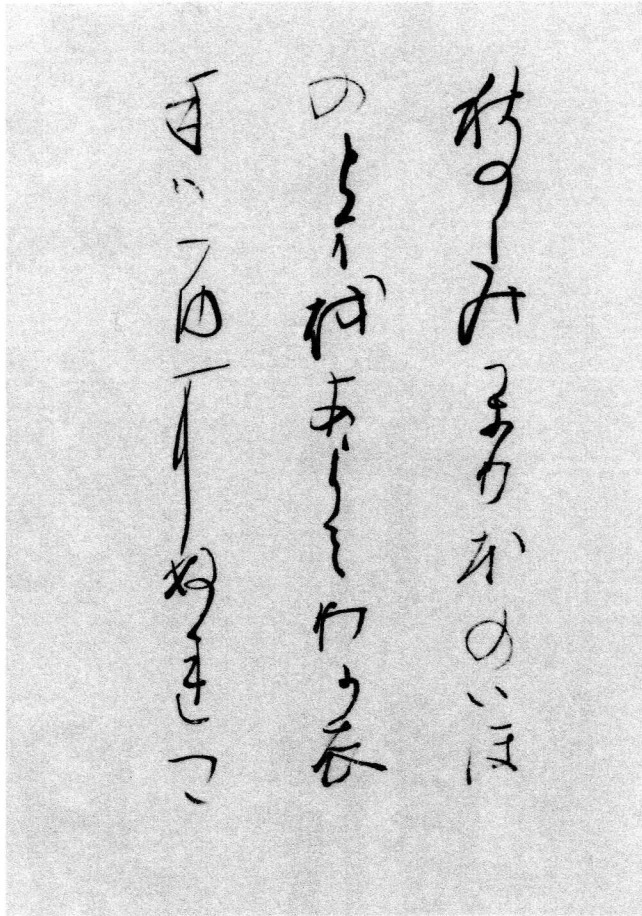
『百人一首』中村素堂先生の仮名散らし書きの魅力 (一)

秋の田のかりほの庵の 苫をあらみ わが衣手は 露に濡れつつ

天智天皇

(天智天皇)

六二六年〜六七一年。飛鳥時代の第三十八代天皇(在位六六八〜六七一)。名は中大兄皇子(なかのおおえのおうじ)。舒明天皇の皇子。六四五年の「大化の改新」の中心人物。



〈字母〉

秋の多能 閑利本のいほ

のと万越あら三 わ可衣

手ハつゆ 耳に ぬれつつ

中村素堂先生の書 大島香菊様提供

〈歌意〉

「秋、田のほとりの仮小屋で夜を明かしていると、屋根や囲いの苫(茅などで編んだもの)の目が粗いので、私の着物の袖は夜露ですつと濡れ続けている。」

この歌は『後撰和歌集』(秋・三〇二)から選ばれています。

長年の夢がかない、素堂先生が書かれた「百人一首」が揃いましたので、新年より開始いたします。三十六歌仙は、しばらくお休みします。

(中村青藍)